

リスク管理

現代は、人類史上かつてない変化の時代に遭遇している。そして、リスクに満ちている。これらのリスクは、一見関係なさそうで、実は、相互に関連性を持っている。地球温暖化は、エアコンをつけながらビデオを見ている生活がCO₂排出の集積を通じ北極の白クマの生活を脅かしていること、またサブプライム問題、米国デトロイト市での住宅ローン貸出しが国際金融システムを通じて地球の反対側で銀行経営の危機を招いていることを我々に教えてくれている。企業経営リスクも家庭生活や地球全体のリスクと相互関係がある社会に我々は生きている。

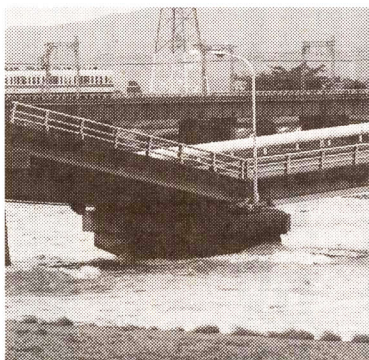
では、現代は、今までの社会と何が違うのか。アルビン・トフラーは

リスクマネジメント

ABC

現代リスク社会に生きる

氾濫する河川に危険は克服するだけでなく回避することも必要



レーキで対処するように、

即応的なリスク対処の技術・ノウハウが必要になる。

このリスク対処には、二つのタイプがある、第一のタイプは「回避型」である。

変化もよく見ると過去の再現である場合がある。かつてない大雨の後、川の氾濫や地滑りが起きることを知っていれば、川沿いや傾斜地に家を建てない。経験、伝統、伝承などのノウハウを生かし、予めリスクを回避するタイプである。危ないことには手を出さない、予兆が見えたら逃げるなど、消極的ではあるがエネルギー負荷の少ない安全な方法である。エアコンをつけな

い、低所得者ローンは販売しない、自動車のスピードを出さないなどの行動となる。

第二のタイプが「克服型」である。川の氾濫を堤防で、地滑りを砂防ダムで予防するなど、リスクを予見して発生による影響を克服するタイプである。リスクに積極的に向き合うことで、川沿いに住宅地が出来るなどの便益も多いが、克服するためのエネルギー負荷が高い方法である。エアコンをつけるが植林活動もする、低所得者ローンを販売するが担保もしっかりとる、自動車のスピー

ドも出すが高速道路を造るなどの行動になる。トフラーの指摘したように、現代社会は変化のスピードが速く、相互関連性が複雑であることから、冷静に過去を振り返るなどの時間的余裕がなく、リスク対処が「克服型」になっている。この方が、GDPも増えて豊かな社会が享受できる。

『第三の波』の中で、「変化の加速性」であると指摘している。現代社会は、進歩をするために日々変化をしているが、この変化のスピードが加速化されている点が、産業革命Ⅱ第二の波と違うという。そこでは、自動車のアクセルを踏んでいる際に直面するリスクには、瞬時にハンドルとブ

る。変化もよく見ると過去の再現である場合がある。かつてない大雨の後、川の氾濫や地滑りが起きることを知っていれば、川沿いや傾斜地に家を建てない。経験、伝統、伝承などのノウハウを生かし、予めリスクを回避するタイプである。危ないことには手を出さない、予兆が見えたら逃げるなど、消極的ではあるがエネルギー負荷の少ない安全な方法である。エアコンをつける

な、低所得者ローンは販売しない、自動車のスピードを出さないなどの行動となる。トフラーの指摘したように、現代社会は変化のスピードが速く、相互関連性が複雑であることから、冷静に過去を振り返るなどの時間的余裕がなく、リスク対処が「克服型」になっている。この方が、GDPも増えて豊かな社会が享受できる。

しかし、サブプライム問題で、この克服も万全ではなく、破綻したリスクの怖さも分かってきた。今後は、スローライフ、ワークライフバランスなどの新たな価値観を持ち、「回避型」の方法も同時に考慮すべき時代に来ていると思われる。地球温暖化は、当にそのことを我々に教えてくれているのではないだろうか。(日本総合研究所)

「回避型」考慮すべき時代に

(おわり)